

神戸で堂々 穴水キリコ

まつりに参加 **地震を機に交流**

穴水ウインドアンサンブルの有志らが二十日、神戸まつりに参加し、メインのパレードで高さ五・五メートルのキリコ二基を担いだ。

(宮畑譲)

二〇〇七年の能登半島地震後、神戸市の職員がボランティアで穴水町を訪れたことをきっかけに市と町は交流を続けており、輸送費は町が負担した。キリコは昨年、担ぎ手がなくなった地域から譲りうけて復活させた。

パレードに参加した七十組の

能登をPR

うち三十四番目に登場したメンバーと市町の職員計五十人は、随時キリコを担いで市内を二時間かけて練り歩き、神戸の人に能登の祭りをアピールした。団長の清水一洋さん(四三)「大町は「神戸の人と一緒にキリコを担げてよかった。心地のよい疲れが残った」と話していた。



キリコを担ぐ穴水ウインドアンサンブルの有志ら＝神戸市で(穴水町提供)